



小さな花に込められた力

校長 田中 秋人



真夏のような暑さが続いています。今年は驚きの6月中の梅雨明けとなり、舞岡小学校にも太陽の光が降り注いでいます。校門の横にある紫陽花の花は、恵みの雨が今年は少なくなり残念そうでした。その一方で屋上プールからは、ルールを守りながら、水に慣れ親しんで水泳学習をしている子どもたちがいました。梅雨から夏に向けての季節の移り変わりを感じる日々です。

先日、児童運営委員会の6年生が今年度の児童会の目標を伝えるために職員室を訪ねて来ました。児童会とは、児童自らが学校をよりよくするために活動する組織です。運営委員会の児童が目標の素案を作り、その素案について各学級で話し合いをしました。そして、話し合った結果を4～6年生の各学級の代表が参加する代表委員会でもまとめ、本年度の目標が決定しました。みんなで話し合った本年度の目標は、「あつまれ！まい小の力 協力・チャレンジ・思いやり」です。その意味を児童に尋ねたところ、「舞岡小学校にはたくさんのよいところがある。みんなにその良さを気付いてもらい、大きな力にしたいから」との声が聞かれました。この意味を聞いて私は文部科学省が推進する「地域ととともにある学校」と同じ考え方だと感じました。

現在、文部科学省では、「開かれた学校」から更に一步踏み出し、「地域ととともにある学校」へと転換していくことを目指しています。この「地域ととともにある学校」とは、地域の人々と学校が目標やビジョンを共有し、学校と地域がそれぞれの良さや力を生かし、一体となって子どもたちを育むというものです。舞岡小学校でも、この目標やビジョンを共有するために、今年度も学校運営協議会を年に数回開催を予定しています。会には地域や保護者を代表する方々に参加をお願いし、学校運営や教育活動についてのご意見をお伺いする予定です。



梅雨の時期に咲く紫陽花。一つひとつの花は小さい存在です。でもその小さな花が集まることによって見事な紫陽花となります。同じように私たち一人ひとりの力は小さいかも知れません。けれど、学校・地域・保護者が一体となって目標やビジョンを共有し、協働していくことが子どもたちの未来という大きな花を咲かせることにつながっていくのです。

梅雨が明け、いよいよ夏本番です。どうぞ今月も変わらぬ温かいご支援ご協力をお願い申し上げます。